

製品名: Syk (リン酸化Tyr525) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05499**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	72kDa

抗原情報

遺伝子名	SYK
別名	SYK; Tyrosine-protein kinase SYK; Spleen tyrosine kinase; p72-Syk
遺伝子 ID	6850.0
SwissProt ID	P43405
免疫原	抗血清は、ヒト SYK の Tyr525 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 491-540

背景

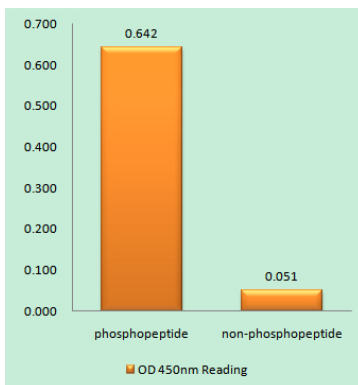
この遺伝子は、非受容体型チロシンキナーゼファミリーのメンバーをコードします。このタンパク質は造血細胞で広く発現してお

り、活性化免疫受容体と下流シグナル伝達イベントを結びつけ、増殖、分化、貪食など多様な細胞応答を媒介します。上皮細胞増殖の調節因子であり、ヒト乳癌における潜在的な腫瘍抑制因子であると考えられています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2010年3月]、触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。、機能: BCR 刺激応答の正のエフェクター。リンカー領域のチロシンがリン酸化されていない場合はホスホイノシチド 3 キナーゼ依存性経路を介して、または Tyr-348 と Tyr-352 がリン酸化されている場合はホスホリパーゼ C- γ 依存性経路を介して、B 細胞抗原受容体 (BCR) をカルシウムイオンの動員に結合します。このように、Syk の異なるリン酸化は、BCR が細胞内カルシウム イオンの調節に連動する経路を決定できます。、PTM:自己リン酸化されます。、PTM:Tyr-323 のリン酸化は、BCR 刺激によるカルシウム イオン シグナル伝達の負の調節因子として機能するアダプター タンパク質である c-Cbl の結合部位を作成します。、PTM:Tyr-348 と Tyr-352 のリン酸化は、ホスホイノシチド 3-キナーゼ非依存性経路を介して、ホスホリパーゼ C- γ のリン酸化と活性化、およびカルシウム イオン動員の初期段階を促進します。、PTM:BCR 活性化後に CBLB によってユビキチン化され、プロテアソームによる分解が促進されます。、類似性:タンパク質キナーゼ スーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼ ファミリー。、類似性:タンパク質キナーゼ スーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼ ファミリー SYK/ZAP-70 サブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、類似性: 2つの SH2 ドメインを含む。、サブユニット: リン酸化されると CBL および SLA と相互作用する。SLA との相互作用により CBL と結合し、CBL の破壊につながる可能性がある。リン酸化 NFAM1 と相互作用する (類似性による)。エプスタイン・バーウイルス LMP2A と相互作用する。SH2 ドメインを介して CD79A のリン酸化 ITAM ドメインと相互作用し、SYK の自己リン酸化と活性化を促進する。FCRL3 と相互作用する。、

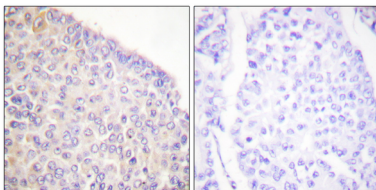
研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害性、B 細胞抗原、Fc イブシロン RI、Fc ガンマ R を介した貪食作用、

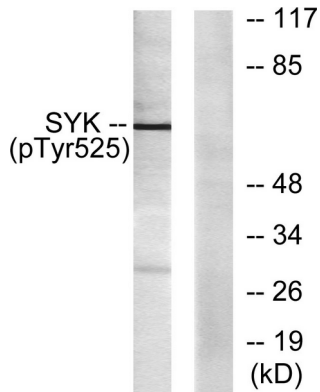
画像データ



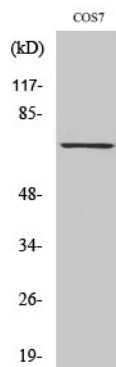
SYK (リン酸化 Tyr525) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



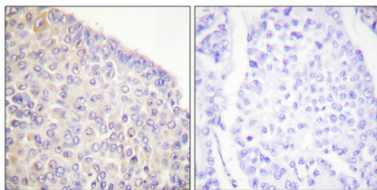
SYK (リン酸化 Tyr525) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



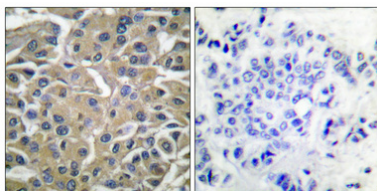
SYK (リン酸化 Tyr525) 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Syk (Y525) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。